

さまざまな変遷を遂げた 公園の姿を振り返ってみよう

■中島公園

都心部の近くにありながら、自然が豊かな公園。1910(明治43)年に中島遊園地から改称された。園内にはコンサートホールKitara、市天文台、中島体育センターなどがあり、散策はもちろん、さまざまな目的で多くの人々が訪れる。

所在地中央区中島公園1



【街の発展やにぎわいに関わってきた中島公園】
今や196万人以上が暮らす街へと発展した札幌。ここでは、これまでの札幌の歩みを、さまざまな角度から見ていきます。
問い合わせ 広報課 ☎(11)2036

札幌の歴史 あれこれ No.03

1871
ころ

街の整備に欠かせなかった木を大量に保管



明治初期、建物などの建築に使う木を、公園の西側を流れる鴨々川や、創成川の流れを利用して、下流にある製材所へと運搬。途中に位置した現在の中島公園に、木を保管する貯木場を設けて、流す木の量を調整した時期があった。

◀1873(明治6)年に出版された地図「札幌郡西部図」に貯木場と思われる池が描かれている

北海道立図書館所蔵

1887
から

約20年の間、競馬の舞台に

1887(明治20)年、中島公園に競馬場が設置された。ここで走った馬は、札幌の中心地の近くにつくられた山鼻兵村に住み、街の整備や農業開拓に力を入れていた山鼻屯田兵が、田畑を耕すために飼っていた馬だった。



◀コースは鴨々川に架かるように造られたため、一部が橋になっていた

出典：札幌競馬沿革史第三版

1925

凍った池で行われた第1回氷上 カーニバルには1万人以上が来場



氷上カーニバル開催に際しての記念写真

札幌市公文書館所蔵

▲ピエロや騎士などの格好をしたスケーターが集結(写真は1926(大正15)年)

1925(大正14)年には、園内のスケートリンクで氷上カーニバルを初開催。滑る速さや仮装の出来栄を競った。催しは市民に定着し、1974(昭和49)年まで続いた。

1958

後に国の重要文化財に指定される豊平館を大通から移築



札幌市公文書館所蔵

▲結婚式場の申し込み客で混雑する豊平館(写真は1964(昭和39)年)

現在、園内の北西にある豊平館は、開拓使がホテルとして建てたもので、明治天皇も宿泊。その後、結婚式場としても活用されるようになった。